

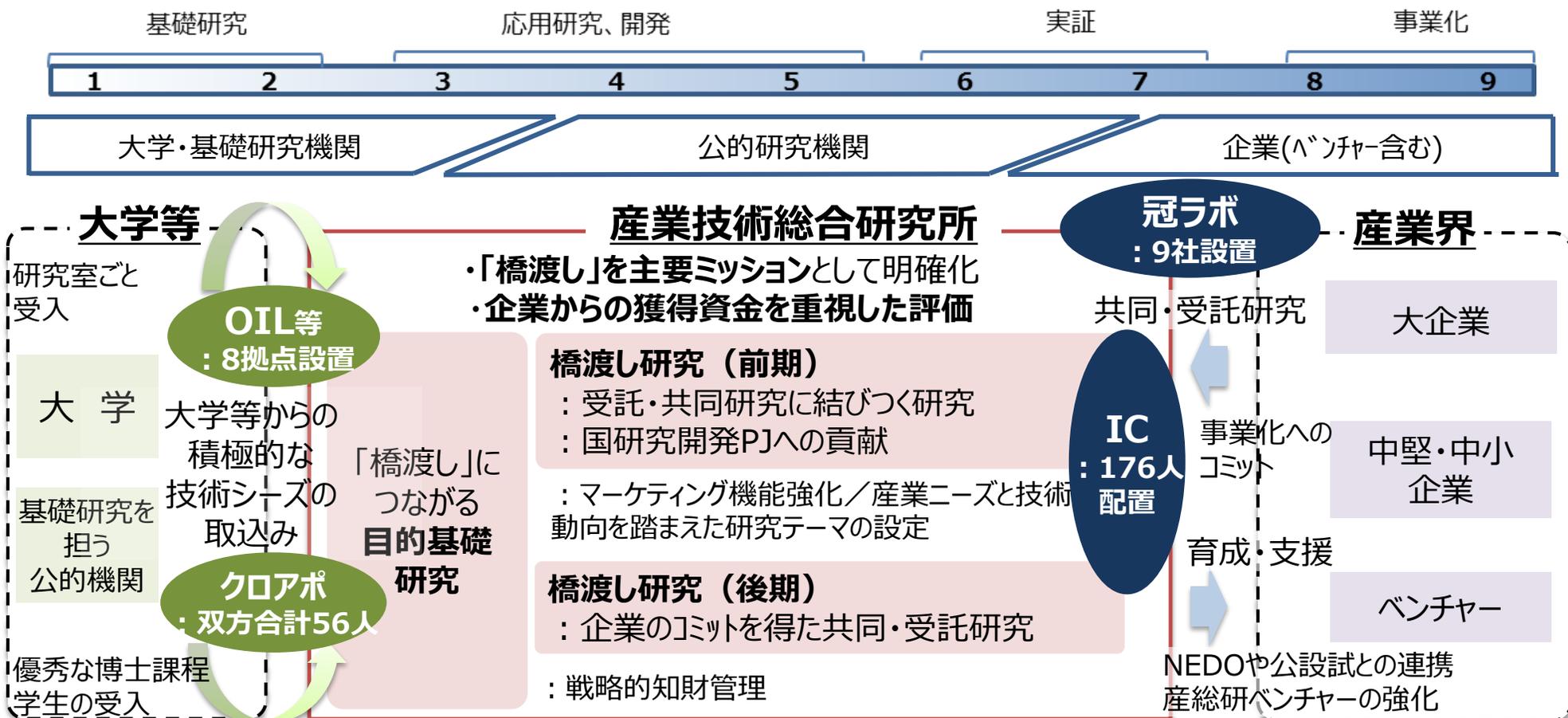
# 国立研究開発法人産業技術総合研究所 第5期中長期目標の検討に向けて

2019年3月29日

研究開発・イノベーション小委員会事務局

# 産総研 4 期のミッションと取組（「橋渡し」機能の強化）

- 国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）においては、平成27年度から開始された第4期において、**我が国のイノベーションエコシステム形成のため、基礎研究と事業化の結節点としての「橋渡し」機能を担い、同機能を強化することを目指し、「民間資金を5年で3倍の138億円獲得」との目標を掲げ、活動を実施。**



知的基盤／標準化への貢献／橋渡しマーケティング活動／地域イノベーションへの貢献

# 産総研に対する期待：関係者ヒアリングでの主なコメント

- 研究内容としては、基礎研究や不確実性の高いテーマ、民間企業が行わない分野への注力への期待の声があった。
- 機能面では、事業化までのサポート、企業や地域との連携のハブ・プラットフォームとしての期待の声があった。

## (全般)

- ✓ 民間資金の獲得を最重要の目標としているが、研究資金のバランス（国費・公的資金・民間等）も国立研究開発法人として何を重視するのかを踏まえて改めて検討する必要がある。

## (研究内容)

- ✓ 国研はより基礎研究に力を注いでほしい。産総研などは割り切って中長期のものに注力すべき。
- ✓ 国研にお願いしたいことは、企業では不確実性が高く投資することが難しいテーマ。
- ✓ セキュリティ（サイバー、エネルギー等）については担い手が難しく大学も制約があるので、産総研が担うことを期待
- ✓ 企業だけでは産業とならない分野、特に防災に対応する研究等に期待。国家のあるべき対応のうち、民間企業が行わない分野に注力すべき。

## (機能)

- ✓ マーケティング機能等、もう少し事業化に近いところのサポートがあるといい。
- ✓ 産総研には地域や企業と繋がるネットワークがある。それを大学にも広げて地域や企業と繋げ、全体を底上げしていくことを期待。
- ✓ 個社で行うと効率が悪い、共通的、基盤的なことに取り組んでほしい（特にデータ基盤）。またそうした場の提供によって、企業同士のコミュニケーションも活性化する。
- ✓ ICをプロフェッショナルに育てていき、いずれは大学やVCの人間などもここで育てて戻していくなど、日本全体で不足している横断・繋ぎ人材のプラットフォームの構築が期待される。

# 2025年以降を見据えたこの5年間における産総研の役割について

- 産総研の次期（第5期）中長期目標期間である2020～2024年度の5年間の念頭に、産総研に何を期待するか、ご議論いただきたい。

## 1. 国研や大学等の役割の変化・多様化が求められる中で、産総研に期待する機能は何か

- 第4次産業革命の進展により、価値を生み出す源泉や環境のパラダイムシフト（モノ⇒サービス等）、価値を生み出す主体のパラダイムシフト、産学融合など価値を生み出す手法の多様化が起こる中で、産総研に求められる役割も単なる「技術を社会へ」から「価値を社会へ」に変化。
- 現在、産総研は技術の「橋渡し」機能強化を第一のミッションとし、「目的基礎研究」と「橋渡し研究」により橋渡しを行っているが、今後の日本の研究開発において、**産学それぞれの立場から産総研に期待する機能は何か**。
- 例えば、国立研究機関という立場を生かして規制緩和や基準作成を見据えた研究組織や、課題の多様化や早い時代変革を踏まえて課題融合的な機動性の高い研究組織や社会課題解決のためのシステム・デザイン研究を行うような組織が必要ではないか。

## 2. 特に期待する研究開発分野はあるか。

- 国研として、国の政策に近い研究開発（エネルギー等）の役割を担う一方で、研究分野の「多様性」が強み。こうした特徴を持つ国研として、**特に期待される研究開発分野**（例：国の政策に近い部分の深化、異分野融合等）はあるか。

## 3. 研究開発以外に必要な機能は何か。（例：拠点、人材育成、人材流動化促進、事業化伴走、標準化の取組等）

- 同業他社や異業種企業が集い、**基盤・協調領域の開発を行うような拠点機能を今後どのように発揮すべきか**（FREA、臨海のAIセンターや柏センターはこうした場を目指している）。
- 外部人材も含めた**コーディネーター人材の育成機能**、クロスアポイントメント制度を活用した**人材流動化のハブ・人材バンク、事業化への伴走**などにも期待が集まっているのではないか。
- 先端技術や横断的な技術案件での**標準化への取組**について産業界からのニーズが高まる中、現状は何が不足しており何に取り組むべきか。